## 令和5年度第2回地区推進会議

日時:令和5年8月22日(火)

午後3時~午後4時30分(予定)

場所:市川市勤労福祉センター本館

3階 大会議室

### 会 議 次 第

- 1 開会
- 2 議題
  - (1)令和4年度の振り返りシート及び地域ケア拠点での相談状況等について (2)その他
- 3 閉会

#### ≪配布資料≫

- 資料1 第4期わかちあいプラン振り返りシート(令和4年度)
- 資料2 令和4年度 振り返りシートの「相談員」に関する記述等 (本日差し替え)
- 資料3 地域ケアシステム相談員の位置付け、役割・業務内容について (本日配布)
- ・よりそい支援事業 市民向けリーフレット (本日配布)

令和5年8月22日 第2回地区推進会議 資料1

第4期わかちあいプラン 振り返りシート (令和4年度)

(令和4年度)

市川第一地区社会福祉協議会

				(社協地区担当 C W、広域 CW)	
地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および  地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【でるぼサロン】 ・感染状況を見ながら、「サロンデュポン根本」、「でしごとサロン」、「市川南わいわいサロン」が再開した。  【地区社協事業】 ・屋外事業ということもあり、感染対策を十分に取り、ラジオ体操を開催した。8日間で延べ2、000人の参加があった。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談と その調整や他地区での情報共有を行っ た。 ・次年度のサロン再開に向けた相談と調	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2	・相談機能の強化・地域ケア拠点の充実	【地域ケア拠点機能の強化】 ・地域ケア拠点に、新たな相談員確保	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応 じた拠点利用のガイドラインの見直しを 行った。	・相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が 参加する「地域ケア推進会議」を創設し
地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困 窮」	【地域ケアシステム推進連絡会】 ・感染状況をみながら2回開催することができた。  【相談員会議】 ・感染状況をみながら2回開催することができた。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し 地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談	・地域ケアシステム推進連絡会、福祉委員会へ参加し、地域の情報共有を行た。 ・地域ケア会議へ参加し、地域課題の解決に向けて検討をした。 ・圏域会議へ参加を加し、関係機関との	た。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施  〜身近な地域の支え合い〜	・お互いさま事業の具体化	・来年度、「お互いさま事業」実施に向けた、検討をはじめた。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地 区連絡会を開催し、コーディネーターに 対する新たな予算化の提案をした。		・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
地域福祉活動を進めていく	うえでの社協への意見・要望・期待	市川市社会福祉協議会 ○研修会の開催、内容充実 ○近隣地区との ○市社協会費のPR方法の工夫	D.合同事業が実施しやすいような環境素	<u>  </u>	
地域福祉活動を進めていく	うえでの行政への意見・要望・期待	行政 (市川市) 〇具体事業を支えるインフラ整備 (拠点の研 〇市民生活の課題を解決するためのネット。	,	市内の地域各種団体の地区割りの統一	14

○情報の発信や周知に工夫を凝らし、的確な内容とする

(令和4年度)

市川第二地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み	
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【てるぼサロン】 ・コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、サロン活動のガイドラインに沿って3ヶ所のサロンを開催した。 【地区社協事業】 ・コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、総会、三役会、役員会、監査会、サロン部会、広報部会、ふれあい七社めぐり実行委員会等の会議を、計12回開催した。 ・広報を8月、1月に発行(各自治町会へ回覧をした。) ・ふれあい七社めぐりを1月に再開した。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談とその調整や他地区での情報共有を行った。 ・次年度のサロン再開に向けた相談と調整を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを 実施した。	人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実	
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点機能の強化】 ・コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、開所した。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、3回開催した。 【相談員会議】 ・コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、6回開催した。	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。	・地区社協役員会、部会に参加した。 ・相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や整備について検討した。 ・地域ケアシステム推進連絡会、福祉委員会へ参加し、地域の情報共有を行た。 ・地域ケア会議へ参加し、地域課題の解決に向けて検討をした。 ・園域会議へ参加参加し、関係機関との連携を図った。	「地域ケア推進会議」を創設した。	
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 〜身近な地域の支え合い〜	・お互いさま事業の具体化	・コロナ禍の影響で、具体的な進展はなかった。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を開催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提案をした。	・他地区の情報提供を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する 人を養成し、担い手確保を促進するため「生 活支援サポーター養成研修」を実施した。ま た、修了者に対してステップアップ講座を実 施し、活動団体とマッチングできるように取 り組んだ。	
地域福祉活動を進めていく	うえでの社協への意見・要望・期待	市川市社会福祉協議会  〇丁寧な説明と納得したうえでの事業の実施  ○地区が広く自治(町)会ごとにサポートして欲  ○サロンに誰もが参加しやすいような環境づくり				
地域福祉活動を進めていく	うえでの行政への意見・要望・期待	行政 (市川市) ○情報提供を適宜して欲しい ○住民説明を詳しくして欲しい ○場の確保 (入りやすい 1 階空き店舗等) ○福祉サービスを利用していない孤立しがちな高齢者の支援を具体的に検討して欲しい				

(令和4年度) 国府台地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区担当CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
		【てるぼサロン】	・事業助成金とサロン助成金を各地区社	・てるぼサロン、地区社協事業の相談	・高齢者のちょっとした困り
·-マ1	・地域活動の広報・PR	・感染対策を十分にとったうえで、5ヶ	協に対して助成を行った。	とその調整や他地区での情報共有を	ごとを支援する人を養成し、
	・活動の場の確保	所のサロンが5月から再開した。	・サロン活動支援講座、てるぼサロンま	行った。	担い手確保を促進するため
てるぼサロン	・地域の担い手の確保・育成	・市社協が主催するてるぼサロンまつり	つりを実施した。	・次年度のサロン再開に向けた相談と	「生活支援サポーター養成
および		に参加した		調整を行った。	修」を実施した。また、修
地区社協事業の拡充				・サロン活動支援講座、てるぼサロン	者に対してステップアップ
		【地区社協事業】		まつりを実施した。	座を実施し、活動団体とマ
"ふれあい"や		・新型コロナの影響・雨天の為、すべて			チングできるように取り組
'つながり"を育むために~		中止 ・国府台小学校で行われた「こう			だ。
		のとり祭り」に参加し、地区社協をPRし			
		た			
		【地域ケア拠点機能の強化】	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応	・相談員会議へ参加し、地域ケア拠点	・主に高齢者支援に関する
<b>-</b> マ2	・相談機能の強化	・新型コロナの影響で、拠点の業務時間	じた拠点利用のガイドラインの見直しを	の充実や整備について検討した。	域課題の把握と解決に向け
	・地域ケア拠点の充実	を令和4年の12月まで短縮し、令和5	行った。	・地域ケア会議へ参加し、地域課題の	て、地域の多様な主体が参
地域連携の強化	・団体間・関係機関との連携・協働	年1月から通常時間で開所した。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握	解決に向けて検討をした。	する「地域ケア推進会議」
	・個別ケースの検討		等、連携を図った。	・圏域会議へ参加参加し、関係機関と	創設した。
〜地域における	・地域における福祉課題の実情把握	【地域ケアシステム推進連絡会】	・地域ケアシステム推進連絡会に出席し	の連携を図った。	<ul><li>「いちかわ支え合いネッ</li></ul>
福祉課題の把握と対応~	(例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」	・新型コロナの影響で中止	地域との連携を図った。	・福祉教育で地区内の小学校と連携を	ト」を地区社協以外の関係
	「孤立死・孤独死」「生活困窮」		・社協に入った地域住民からの個別相談	図った。	体に周知し、登録を働きか
	「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【相談員会議】	に対して、状況に応じて、地域で解決で		た。
		・感染防止に考慮し6回開催	きないか相談・調整を行った。		
		**************************************		(1 H) = - 1++010 (I) ( (- )	- W 1
_ 2	**************************************		・モデル実施(4地区)対象にモデル地	・他地区の情報提供を行った。	・高齢者のちょっとした困
<b>-</b> ₹3	・お互いさま事業の具体化	かった。	区連絡会を開催し、コーディネーターに		ごとを支援する人を養成し
			対する新たな予算化の提案をした。		担い手確保を促進するため
「お互いさま事業」の実施					「生活支援サポーター養成
					修」を実施した。また、修
		-	<u>                                     </u>		者に対してステップアップ
		市川市社会福祉協議会			
		○「てるぼサロン」や「地域ケアシス	、テム」について、わからない人も多い。	ので、わかるような広報や宣伝を心挂	トけ、認知度をあげてほし
地域福祉活動を進めていく	うえでの社協への意見・要望・期待	○地区別計画の進捗状況や検証を確認	ナフナンス ナンナフバ動に敷げこん	フ レ ミ ナ、十 一 4 ジ 1 エ 1 . .	

行政(市川市)

地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

○市のバスを借りやすくしてほしい。

○若い人たちがもっと地域活動に参加していけるよう、施設や連携が必要である。

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や  "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【でるぼサロン】 活動制限や人数制限がある中、出来ることから再開し、サロンを楽しみにしている高齢者や子育で世代からは評価をいただいた。 【地区社協事業】 ・ラジオ体操の開催。コロナ禍で行き場のない親子に楽しいイベントを提供でき、早朝から多くの参加者があり、8日間で延べ2,000人を超える参加があった。地域交流ができなかった学校とも連携を図ることができた。 ・ふれあい演芸会の開催。コロナ禍での対策として、午前・午後の2回に分けて実施した。楽しみにされていた高齢者からとても富ばれた。 ・よってこギャラリー展を再開した。真間小、須和田の丘支援学校や地域の方の作品を月替わりで展示し好評だった。・コロナ禍では、ミニ広報「よってこ瓦版」を発行し地域住民にポストインした。また、9月には「よってこだより15号」の発行を再開し周辺自治会にも周知した。 【地域の担い手の確保・育成】 次世代へ「ケア」をつなぐために、若手の相談員を数年にかけて6名獲得し、その育成に努力している。	・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・サロン活動支援講座及び、てるぼサロンまつりを開催 した。 ・サロン、事業の再開に向けた、相談、調整を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ請座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉腰の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	10年~20年かけての利用者さんもおり、障がい者の集える場となっている。相談 員はお話相手となりながら、個別の課題がどこになるのか受け取るようにして来 た。近年は障がい者支援のNPO法人との連携ができ、医者の通院介助やヘルプ作 業、家族との接触等は専門家に担っていただいている。そのことで利用者を広く 支援できるようになった。 高齢者サポートセンターとは各種サロンでさまざまな情報をいただいたり、高齢 者のご相談を引き継いだりして連携をすることができている。 新たな相談についてはふらっと立ち寄ることで各種相談を受けることができ、行 政各部門から情報の提供につなげた。心の相談については気楽に立ち寄り話すこ とで解消できたこともあった。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携 を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状 況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行っ	地域の情報共有を行た。 ・地域ケア会議へ参加し、地域課題の解決に向けて検討 をした。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施	・お互いさま事業の具体化	本年は進展がなかった。利用者と協力員とのマッチングが困難なので、今後は地 区社協は地域の様々な有料無料を含めた情報をご紹介するにとどめる予定。Ex.ポ ランティアセンター・千葉商科大学学生のよろず隊・民間の介護グループ・まご ころサポート他	催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提案		・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ請座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ4 安心・安全な街づくり(防災)	・防災に関する基盤づくりの構築	「防災協議会が発足し、地区社協として参加して来たが、この3年間コロナの影響で対面会議は開かれなかった。しかし、この協議会を通じて、多くの他団体との交流もできた。自治会や民生委員等に限られていた関係から、特に、若い世代の真間小PTAやパパの会、少年野球などの人脈を生かして、地区社協活動PRと参加協力へとつなげていきたい。また、防災協議会への地区社協への参加に関し、市社協としても他地区社協でも奨励してほしい。災害時に地区社協の利用者等の高齢・障害・子どもの把握をしていて、女性メンバーの多い地区社協にえそできることがあるし、高齢者に偏っている活動主体を少しでも若い層への呼びかけができるメリットがあると思う。	・災害ボランティアセンター立上げ・運営訓練を行っ た。	・災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練に参加 した。	
市川市社会福祉協議会 地域福祉活動を進めていくうえでの社協への意見・要望・期待 〇市内の他地区社会福祉協議会との交流や親睦を図り 〇担当職員にZOOM等の技術支援をしていただいたが				共有化もほとんどできなかった。CWからもっと他地	区の情報をまとめて提示してほしかった。
地域福祉活動を進めていく	うえでの行政への意見・要望・期待	行政(市川市)  ○地域ケアシステムの継続、よってこの予算の長期継続を希望  ○人材は  ○地域の現状を正しく理解してもらいたい、そのために現場に足を運んでは  ○平成30年施行の避難行動要支援者名簿制度の見直しに伴い、いち早く  ○コロナの制限はいつまでかかるのか?  ○支えあいアプリを作るだけでは  ○清掃事業課の戸別収集事業の対象を要支援にも広げてほしい。  →地区推	ましい。○真間稲荷神社集会所の使用料の補助をし <sup>・</sup> 名簿を明確にしてほしい は意味がない。高齢者にも情報が浸透できる方法を <u>?</u>	<u> </u>	

(令和4年度)		菅野須和田地区社会福祉協議会				
地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区担当CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み	
テーマ1 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【でるぼサロン】 ・感染予防対策を十分にとったうえで、新規でるぼサロン「体操サロン」を開設した。 【地区社協事業】 ・感染的止に考慮し、菅野公民館芝生広場において、「菅野須和田オリンピック」を開催した。子育で世代から、高齢者まで約300名の参加があった。 ・新規事業として「新春ふれあい発表会」を企画した。地区内で活動されている芸術文化サークルによる合同発表会だったが、感染拡大により中止を決定。新たな取り組みとしては、若い世代の学生ボランティアグループとの連携をした。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して 助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施 した。		・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ調座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。	
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点機能の強化】 ・感染防止に考慮し、1人体制で前半・後半の入替制とした。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・感染防止に考慮し4回開催 【福祉委員会】 ・感染防止に考慮し4回開催 【相談員会議】 ・感染防止に考慮し4回開催 【その他】 ・総会は感染防止に考慮し対面で開催 、コロナ禍でも三役会等を開催し情報を共有及び各委員への文書による周知	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。	・地区社協役員会に参加した。 ・相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や整備について検討した。 ・地域ケアシステム推進連絡会、福祉委員会へ参加し、地域の情報共有を行た。 ・地域ケア会議へ参加し、地域課題の解決に向けて検討をした。 ・圏域会議へ参加参加し、関係機関との連携を図った。 ・福祉教育で地区内の小学校と連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。	
テーマ3 「お互いさま事業」の実施	・お互いさま事業の具体化	・自治会として対応したゴミ出しケースを、試験的にお互いさま事業へ移行し約半年間実施した。その後、介護認定が要介護に変わり、市のゴミ出し支援サービスを利用するようになった。 ・事業の再開に向け、周知PR方法、活動内容など、モデル	催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提	・お互いさま事業の実施について相談、調整。 ・お 互いさま事業コーディネータ研修会及び、モデル地区 連絡会の開催。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。	
~身近な地域の支え合い~		実施期間での検討をすすめる。				
地域福祉活動を進めてい	いくうえでの社協への意見・要望・期待	市川市社会福祉協議会 〇地域ケア事務局の整備と強化 〇お茶飲み・おしゃ ○東菅野方面での活動拠点確保 〇担い手の確保	ベリサロンの推進			
地域福祉活動を進めてい	<b>いくうえでの行政への意見・要望・期待</b>	「空・期待」 「行政 (市川市) 「公福社関係の窓口一本化 「○サロン活動支援 (財政、場の確保) 「公福社関係機関のスリム化、わかり易さを求める 「○縦割りでなく、課を越えた横のつながりを強化				

(**令和4年度**)

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	<ul><li>・地域活動の広報・PR</li><li>・活動の場の確保</li><li>・地域の担い手の確保・育成</li></ul>	【でるぼサロン】 ・現在、地区社協主催3ヶ所。他団体主催が3ヶ所。(うち、一般サロン4ヶ所、子育でサロンが2ヶ所)。 ・今年度、5ヶ所のサロンが再開された。コロナによる人数制限・活動制限等があるが、この機会を心待ちにしていた参加者の様子が伺えた。 【地区社協事業】 ・ふれあい会食会や手長エビ釣り大会等は、実施を見送り。一方、福祉講演会は年度中実施を目指す(3月開催予定)。 ・また、地域ケア拠点を活用した「包丁研ぎ教室」を開催。参加者数は制限のあるものの、好評のため今後も継続していきたい。 ・コロナにより地域活動は少ないものの、関心のあるテーマをもとに広報紙を作成。今回は災害豆知識をテーマとし、良い反響があった。 ・地域福祉に関するいろいろな施策が高齢者中心で、子育で世代への支援も必要。地区社協としてできることを考えていきたい。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	【てるぼサロン】 ・サロンの再開(運営)において、内容等について相談に応じ、調整を行う。 ・地域ケア八幡拠点や全日警ホール等を会場にするなど、各サロンの状況や課題に応じて調整等を行う。 【地区社協事業】 ・コロナ禍における活動制限・参加者制限等を考慮に入れつつ、事業の提案や運営サポートを行う。 ・他地区・他市の、地区社協の取り組みで、参考になる事例を調査し、八幡地区社協での実施の可能性を探る。	手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施 した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるよう
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア推進連絡会の開催】 ・八幡地区の暮らしに関する情報共有・意見交換を行う地域ケア推進連絡会を年6回開催(再開)する。 【福祉課題の共有・意見交換】・車イス等を利用している方が、大規模災害時の避難所(福祉避難所含む)等への移動するにあたっての道路状況等の整備について意見が挙がる。・その他、様々な福祉課題において、当事者の立場からの意見が大切ではないか・・・・との意見も挙がり、今後の地域ケア推進連絡会において、参加者(団体)について広く呼びかけをしていきたい。	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会図った。 ・社域に入った地域住民からの個別相談に対域で解決できないか相談・調整を行った。	・車イス問題に対し、行政に課題を働きかけるとと もに、地域でできることについて提案する。また社 協としてできることとして、まずは駅・市役所周辺	・「いちかわ支え合いネット」 を地区社協以外の関係団体に周
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 〜身近な地域の支え合い〜	・お互いさま事業の具体化	【民間事業所の活用・連携】 ・電球の交換など、ちょっとした困りごとをワンコイン程度でサポートに伺う民間事業所を地域ケア推進連絡会に招き、事業説明を受ける。情報の一つとして、必要に応じて活用・連携していくとともに、地区社協としてできること・必要とされることについて、今後協議を重ねていきたい。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を開催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提案をした。	・民間事業所等と情報共有・連携を行い、八幡地区 における状況を整理し、必要課題を見極め、事業提 案(たたき台)をもとに協議を重ねていきたい。	・高齢者のちょっとした因りごとを支援する人を養成し、担い 手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
・何でも地域に依頼するのではなく、"社協として"できることを先導して行ってほしい。 ・他市、他地区の先進的な事例を紹介してほしい。自治町会も高齢化が進み、コロナを含め、以前のような活動が難しくなっている中、どのような地域活動のありプルを示してもらいたい。 ・社協がまだまだ認知されていないので、関係者含め、改めて活動内容等の周知を徹底してほしい。 ・いろいろな施策が高齢者中心。子育て世代への支援も必要。地区社協事業につながるものも含め、他市の先駆的の事例を調査してもらい、地区社協事業としてでき機としていきたい。				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
地域福祉活動を進めていく	うえでの行政への意見・要望・期待	・いろいろな協力事項を地域(自治町会や民生委員)に依頼・期待するので携してほしい。 ・例えば、災害時の避難行動についても、市は「名簿」「避難所までの道中 しとなることが多い。そこに横串を刺し、市民目線での対応・体制をお願い	中」「避難所の運営」「福祉		

地域福祉活動を進めていくうえでの社協への意見・要望・期待 地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

(令和4年度)

曽谷地区社会福祉協議会

	キーワード	1512 O TO 11 6D 7.	1. + 4. + 1.17 o Fa   1.40 7	(社協地区CW、広域CW)	(-Th (+111+) o Fe 1190 7
地区別計画テーマ		地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	【でるぼサロンの充実】 ・広く地域住民へ届(周知方法の検討と発信 ・新しい方が参加しやすい適営方法、環境づくりの検討 ・各サロンの内容充実とサロン間での連携や協力を行う ・参加者も適営に参画し助け合いながらできるサロンを目指す 【地区社協事業の充実】 ・地域住民が地区社協事業へ提案や参画ができる仕組みづくり ・参加費徴収も視野に入れながら、幅広い地域住民を対象とした 事業の実施 ・若い世代や自治会未加入世帯へ効率良く伝わるPR方法の検討 ・自治会への事業内容の周知や意見交換を図る ・福祉委員が共通理解を持ち、事業ごとに連絡、協力体制をつく る ・福祉委員を退任してもがやりがいを持ち、長く関われる仕組み づくりを実施	【でるぼサロンの充実】 ・新型コロナの影響がある中、感染拡大防止に努め、2つのサロンを開催。  【地区社協事業の充実】 ・コロナ禍のため、各会議は感染予防に留意し短時間で行った。 ・昨年度に引き続き、家庭で料理をつくりインターネットを利用して投稿する「親子クッキングコンテスト」を開催。学校と連携して審査を行い、料理写真を公民館にてバネル展示を行う。来場者にアンケートを実施。・たぶれル展示を行う。来場者にアンケートを実施。・とないを発音に関係して、広報「なごみ」をフルカラーとして年2回発行。地区社協事業や地域の話題など掲載。地区社協事業の周知を図り、お互いさま事業の協力員の募集、利用者の募集を同時に行う。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	【てるぼサロンの充実】 ・てるぼサロンの再開について、サロン部会を開催しその調整を行った。 ・次年度の事業再開に向けた相談と調整を行った。 【地区社協事業の充実】 コロナ禍の中での活動について情報提供等、助言を行った。親子クッキングコンテスト等インターネットを使用した事業実施について支援を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を 養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に 対してステップアップ講座を実施し、活動団体と マッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点機能の強化】 ・新型コロナの影響で、拠点を一時閉所した期間があったが、感染状況を見据えながら開所した。 【地域ケアシステム推進連絡会の充実】 ・新型コロナの影響で連絡会は開催できなかったが、役員会や相談員会議等において地域の情報共有を行う。 【相談員会議を毎月開催。 ・お互いさま事業のモデル実施に伴い、相談員の受付業務等の研修を行う。 【福祉課題の把握と対応の検討】 ・コロナ禍でも三役会・理事会を開催し、関係機関も参加のうえ情報共有を図った。	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点 利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携 を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との 連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対し て、状況に応じて、地域で解決できないか相談・ 調整を行った。	【地域ケア拠点機能の強化】 ・お互いさま事業の実施に伴い、相談窓口としての対応を研修を実施し教科を図る。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・新型コロナの影響で中止となり、参加できなかった。 ・会議は、三役会議と相談員会議各部会開催の調整を図った。 ・福祉委員全員への活動の報告や連絡事項等の伝達支援を行った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 〜身近な地域の支え合い〜	【お互いさま事業の具体化】 - ニーズ調査も含めて地域が必要とする支援体制の検討 - 担い手の発掘、育成 - 拠点でのマッチング機能の養成		・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を 開催し、コーディネーターに対する新たな予算化 の提案をした。	・お互いさま事業について部会において協議検討を 行い、モデル地区の状況等を報告。具体化に向けた 支援を行う。3/月15日にモデル実施。協力員募集 の対応、依頼を受けてからのコーディネートにつ い、て研修及び実地にて支援を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を 養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サ ボーター養成研修」を実施した。また、修了者に 対してステップアップ講座を実施し、活動団体と マッチングできるように取り組んだ。
テーマ4 若い世代の地域活動参画 〜地域活動を担う人材づくりのため、少 年期・青年期・壮年期・中年期(5〜65 歳)参画、参加を促す〜	【若い世代の地域活動参画】 ・幅広い世代が参画できる体制づくり ・意見を反映した事楽展開の実施 ・地区内の小中高生徒会等との連携	【若い世代の地域活動参画】 ・小学生と親を主なターゲットとし、インターネットを活用した事業を開催。お互いさま事業について、若い世代も担い手として取り込めるように検討が行われた。	【若い世代の地域活動参画】 ・小・中・高校生対象のボランティア講座を開催 した。	【若い世代の地域活動参画】 ・自粛期間中の小学生と親を主なターゲットとし、 インターネットを活用した応募受付方法の側面的な 支援を行った。	

(令和4年度)

宮久保・下貝塚地区社会福祉協議会

					人休·卜貝塚地区社会価征励議会
地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
	【てるぼサロンの充実】	【てるぼサロンの充実】	・事業助成金とサロン助成金を各地区社	【てるぼサロン】	・高齢者のちょっとした困りごとを支
テーマ1	・下貝塚自治会館でのサロンの開催	・サロンの定期的な開催を計画していたが、新	協に対して助成を行った。	・コロナ禍でのてるぼサロン開催の調整	援する人を養成し、担い手確保を促進
	・新しい人が参加しやすい雰囲気づくり	型コロナの影響で今年度はてるぼサロン(一	・サロン活動支援講座、てるぼサロンま	及び未開催のサロンへ開催に向けた調整	するため「生活支援サポーター養成研
てるぼサロン	・色々な内容が用意されている	般)のみ活動再開し、子育てサロンは全てが活	つりを実施した。	を行った。	修」を実施した。また、修了者に対し
および		動中止となった。		【地区社協事業】	てステップアップ講座を実施し、活動
地区社協事業の拡充	【地区社協事業】	【地区社協事業】		・コロナ禍での事業実施にあたり、感染	団体とマッチングできるように取り組
	・男性も参加しやすい	・感染拡大を考慮し屋外行事(一般参加者あ		拡大防止について対象者や事業内容につ	んだ。
~"ふれあい"や	・各行事への参加者が増える	り)である「あいさつ運動」「グラウンドゴル		いての助言を行う。	
"つながり"を育むために~	※大事にしたいことは、誰もが参加しや	フ大会」を実施。また、関係者を対象に「福祉		・各会議開催において、議題や資料等の	
	すい場づくりと運営に心がけること	委員の集い」(研修会)を実施。		作成支援を行う。	
		・お互いさま事業準備委員会を計2回開催。			
		【地域拠点機能の強化】	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応	【地域拠点機能の強化】	・主に高齢者支援に関する地域課題の
テーマ2	・相談機能の強化	・今年度は新型コロナの感染状況により、開所	じた拠点利用のガイドラインの見直しを	・新型コロナの影響で拠点の開所時間時	把握と解決に向けて、地域の多様な主
	・地域ケア拠点の充実	時間を短縮するなど、感染拡大防止に努めてい	行った。	短や再開について地域と調整を図った。	体が参加する「地域ケア推進会議」を
地域連携の強化	・団体間・関係機関との連携・協働	た。なお、10月からは通常開所としている。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握	【地域ケアシステム推進連絡会】	創設した。
	・個別ケースの検討	・新しい相談員を含め、相談業務の基本を再確	等、連携を図った。	・新型コロナの影響で中止となり、参加	・「いちかわ支え合いネット」を地区
〜地域における	・地域における福祉課題の実情把握	認し、強化を図った。	・地域ケアシステム推進連絡会に出席し	できなかった。	社協以外の関係団体に周知し、登録を
福祉課題の把握と対応~	(例) 「ゴミ出し」「認知症の徘徊」	・商店街へ寄り合い処の活動をPRした。	地域との連携を図った。	・会議は、三役会議及び役員会議、相談	働きかけた。
	「孤立死・孤独死」「生活困窮」	【地域ケアシステム推進連絡会】	・社協に入った地域住民からの個別相談	員会議の開催について調整を図った。	
	「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	・新型コロナ感染拡大予防のため、福祉委員や	に対して、状況に応じて、地域で解決で	・福祉委員全員への活動の報告や連絡事	
		関係機関が参加する会議は開催できず。	きないか相談・調整を行った。	項等の伝達支援を行った。	
	【お互いさま事業】	【お互いさま事業】	・モデル実施(4地区)対象にモデル地	【お互いさま事業】	・高齢者のちょっとした困りごとを支
テーマ3		「お互いさま事業」準備委員会を開催。地域内	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		援する人を養成し、担い手確保を促進
		での困り事の洗い出しを行うために、高サポ及		ついて調整を図った。	するため「生活支援サポーター養成研
「お互いさま事業」の実施		びケアマネ、民生委員から聞き取り(グループ			修」を実施した。また、修了者に対し
		ワーク)を行った。令和5年度も引き続き、取			てステップアップ講座を実施し、活動
~身近な地域の支え合い~	提案を募る	り組み内容等について検討を行う。			団体とマッチングできるように取り組
					んだ。

地域福祉活動を進めていくうえでの社協への意見・要望・期待

社協会員の増加への積極的な取り組みを願いたい。寄り合い処のPRについての取り組みを願いたい。

サロン活動などの地域住民との交流事業で市のバスを活用できるよう願いたい。

地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

(令和4年度)

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【てるぼサロン】 ・コロナ禍であったが、11のサロンが開催できた。 【地区社協事業】 ・コロナ禍のため事業を見合わせた。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協 に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつ りを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の中止等の 相談とその調整を行った。 ・次年度の事業再開に向けた相談と調整を 行った。	援する人を養成し、担い手確保を促進
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点の活性化】 ・拠点は、感染対策を行い予定どおり開所した。 ・毎月、広い会場にて相談員会議を行った。 【地域ケアシステム推進連絡会の活性化】 ・コロナ禍で開催を見合わせていた連絡会を3年ぶりに行った。(3/8) 【地域連携の強化⇒地域福祉課題の把握】 ・役員会及び事業推進部会を開催し事業の検討を行った。 ・総会は書面開催とした。	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。	行った。 ・地域ケア会議に参加し、地域課題の	・主に高齢者支援に関する地域課題の 把握と解決に向けて、地域の多様な主 体が参加する「地域ケア推進会議」を 創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区 社協以外の関係団体に周知し、登録を 働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施  ~身近な地域の支え合い~	・お互いさま事業の具体化	・福祉委員会で事業の概要確認を行った。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区 連絡会を開催し、コーディネーターに対す る新たな予算化の提案をした。	・新型コロナの影響で、説明会の開催等、具体的な支援ができなかった。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
地域福祉活動を進めていく	うえでの社協への意見・要望・期待	○市民に対し地区社協の取り組みの更なる ○「お互いさまベンチ」の増設 ○市川社協のPRと会員募集の強化	P R		
地域福祉活動を進めていく	うえでの行政への意見・要望・期待	○精華園の有効活用 ○空き家対策 ○ゴミ出しルールの徹底(外国人でもわかるパンフの作成)			

市川東部地区社会福祉協議会

地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

(令和4年度)

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~		【既存のサロンをより参加しやすいようにする】 ・コロナ禍でのサロン活動において感染拡大防止を図りながら、2ヶ所のサロンが実施。 【新たな地域活動の場所(会場)を発掘する】 ・学校との連携により、グラウンドゴルフ教室の開催など新たな事業や活動の場を開拓した。令和4年度は実施できなかったが、令和5年度にむけて複数の学校にて実施できるよう検討中。 【事業に多くの方が参加できるようにする】 ・新規事業として史跡巡り健康ウォークを開催し各自治会より参加者を募った。コロナ渦ではあるが、2回実施できた。また、その準備などで福祉委員どうしの連携を深められた。 【様々な事業を多くの方に届けるようにする】 ・事業参加への糸口として地区社協便りを年2回発行をした。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	【既存のサロンをより参加しやすいようにする】 ・ソーシャルディスタンスを保ちコロナ禍でのサロン開催に向けて模索した。 【新たな地域活動の場所(会場)を発掘する】 ・新規事業としてグラウンドゴルフ教室を小学校において実施されたが、学校での開催において側面的な支援を行う。 【事業に多くの方が参加できるようにする】 ・コナ禍でも開催可能な事業の「ふれあいグランドゴルフ・健康ウォーク」の実施に向けた調整援。 【様々な事業を多くの方に届けるようにする】 ・各行事におけるチラシの作成等支援。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人 を養成し、担い手確保を促進するため「生活支 援サポーター養成研修」を実施した。また、修 了者に対してステップアップ講座を実施し、活 動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点の広報、PRに取り組む】 ・地区社協便りを年2回発行したPRに努めた。 【地域ケアシステム推進連絡会の充実】 ・コロナ禍の為、感染拡大防止の観点より実施出来ず。 【相談員会議の充実】 ・コロナ禍の為、感染拡大防止の観点より実施出来ず。ただし、随時、相談員同士連絡を取り合うなど連携を図った。 【地域課題状況把握と対応の検討】 ・コロナ禍の影響で各種会議の開催が中止となったが、隔月の役員会を開催し、地域課題についての意見交換等を行う。	連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・	【地域ケア拠点の広報、PRに取り組む】 ・各種会議の場で地域ケアの周知を行う。 【地域ケアシステム推進連絡会の充実】 【相談員会議の充実】 ・役員会、理事会において、地域ケア推進連絡会の開催を計画していたがコロナの影響で中止となり、参加できなかった。 【地域課題状況把握と対応の検討】 ・隔月開催の役員会にて地域課題について意見交換などを実施。 ・地域ケア会議に参加し、地域課題の把握に努めた。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
「お互いさま事業」の実施	【お互いさま事業の展開】  ③困りごとの調査を実施。地域住民が求めるニーズをまとめていく  ⑩地域でできる内容をメニュー化しできることから少しずつ展開していく  ⑪お互いさま事業等の地域活動を担う人材の発掘、育成	【お互いさま事業の展開】 ・モデル実施地区への視察を計画したが、コロナ禍の影響で中止となった。 ・地域ケア推進連絡会を開催し、お互いさま事業のモデル地区実施報告を行う予定であったが、コロナ禍の影響で中止となった。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を開催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提案をした。	【お互いさま事業の展開】 ・モデル実施地区への視察を計画したが、コロナ禍の影響で中止となった。 ・地域ケア推進連絡会を開催し、お互いさま事業のモデル地区実施報告を行う予定であったが、コロナ禍の影響で中止となった。	・高齢者のちょっとした因りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
地域福祉活動を進めて	いくうえでの社協への意見・要望・期待				

国分地区社会福祉協議会

(令和 4 年度)

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政 (市川市) の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および  地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や  "つながり"を育むために~	【でるぼサロン】 ①さらなる充実を図るとともに、子育でサロン等の設置を進めて行く ②現在のサロン参加者他、地域の自治会、高齢者クラブ等関係 団体に働きかけ人材確保に努める ③高齢者クラブ等関係団体に働きかけ人材確保に努める ④地域の施設と連携し、会場を提供していただけるように調整する ⑤サロンの参加者を対象とした、アンケート調査を実施 【地区社協事業】 ⑥堀祉委員による高齢者宅等へのお話相手訪問活動を検討していく	上) 【地区社協事業】	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・関係会議への参加及び連絡調整	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を 養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に 対してステップアップ講座を実施し、活動団体と マッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点の強化】 ・日誌、相談カードはPCにて管理。報告や情報は市社協とメールで共有 ・地域ケア部会を立ち上げ、選抜した部会員にて拠点強化及び新規事業について検討中 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・3月に化推進連絡会を開催。地区社協及び地域ケアの事業について再確認をおこなった 【地域福祉課題】 ・コロナの影響により全体での協議ができていない。	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点 利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携 を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との 連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対し て、状況に応じて、地域で解決できないか相談・ 調整を行った。	・関係会議への参加及び連絡調整 ・必要に応じてPC入力方法などを支援。 ・地域ケア部会の連絡調整 ・地区社協及び地域ケアについて説明	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 ~身近な地域の支え合い~	【お互いさま事業】 ⑩退任した福祉委員や地域の支援者に協力員として登録してい ただき、活動の担い手確保を検討 ⑩地区内のサークルや市社協ポランティアセンターの仕組みを 参考に具体化を進める	・二仅云、柱争云にて、わ互いさま争来りいて円	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を 開催し、コーディネーターに対する新たな予算化 の提案をした。	・各会議にてお互いさま事業について回想説明。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を 養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サ ポーター養成研修」を実施した。また、修了者に 対してステップアップ講座を実施し、活動団体と マッチングできるように取り組んだ。
テーマ4  地区社協組織の強化  今後様々な福祉事業を主体的に行い、活動の充実を図る上で、人材の確保と平行して地区社協の組織強化が必要である	【地区社協組織の強化】 ①地区社協の組織を見直し、主体的な活動を行える体制を整え る。大野、柏井、大町のプロック制を更に充実させていく	【地区社協組織の強化】 ・福祉委員会(地域ケア推進連絡会)にて組織について再確認を実施	【地区社協組織の強化】	・地区社協及び地域ケアについて説明	
テーマ5 会員加入の促進 会員加入ををすすめ、地域福祉活動の応援団を増やしていく	【会員加入の促進】 (遠地区社協事業の理解をすすめる上で、自治会等において事業 のPR及び会員加入のお願いを進める	【会員加入の促進】 ・コロナの影響により未実施	【会員加入の促進】 ・新型コロナの影響はあったものの、無理のない 範囲で、各自治町会に会員加入の協力を依頼し た。	・コロナの影響により未実施	
地域福祉活動を進めて	いくうえでの社協への意見・要望・期待	※コロナの影響により協議できていない。			
地域福祉活動を進めて	いくうえでの行政への意見・要望・期待	※コロナの影響により協議できていない。			

大柏地区社会福祉協議会

(令和4年度)

信篤・二俣地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当CW、広域CWの 取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および  地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	<ul><li>・地域活動の広報・PR</li><li>・活動の場の確保</li><li>・地域の担い手の確保・育成</li></ul>	【てるぼサロン】 ・現在、一般サロン1ヶ所、子育でサロン 2ヶ所を開催。 【地区社協事業】 ・高谷中学校と連携し、不登校児童を対象 に「木工教室」を企画したが、参加者が集 まらず中止となった。 ・活動を継続している4団体に助成した。	・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつ りを実施した。	・てるぼサロン再開に向けて準備を行っ	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域拠点の強化】 ・令和4年6月から再開。時間を短縮して開所している。相談員が1名増加された。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・地域ケア推進連絡会は10月から再開し、3回開催する。子育でサロンや学校地域コーディーネーターの方々も参加し、地域の課題を共有した。 ・子どもの貧困に対する意見が挙がり、信 篤・二俣地区における「こども食堂」の必要性を認識した。	・社協に入った地域住民からの個別相談に 対して、状況に応じて、地域で解決できな いか相談・調整を行った。	・再開に向けての準備を行った。 ・自治会連合会やケアマネジャー研修の際に地区社協の説明を行った。  【地域ケアシステム推進連絡会】 ・子ども食堂についての説明、市内の活動 状況等の報告を行った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区社協以外の関係団体に周知し、登録を働きかけた。
<b>テーマ3</b> 「お互いさま事業」の実施  〜身近な地域の支え合い〜	・お互いさま事業の具体化	【お互いさま事業】 ・相談員会議、民生児童委員協議会にて説 明会が開催された。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区 連絡会を開催し、コーディネーターに対す る新たな予算化の提案をした。		・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
地域福祉活動を進めてい	くうえでの市社協への意見・要望・期待	・地区社協の取り組みについて、住民へ ・地域ケアシステム推進連絡会で共有し	への周知の必要性。 た地域課題について、解決に向けた方策	について議論をしてほしい。	

地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

- ・行政、社協、自治会、民生・児童委員、各団体等が地域課題において、それぞれの組織の枠組みを越えて活発に意見交換できるように、行政からも提案を投げ かけてほしい。
- ・自治会が独居高齢者を把握するための方策について、行政との連携強化を図っていきたい。

(**令和 4 年度**) 行德地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【てるぼサロン】 ・各サロン再開に向けて打合せ等を行った ・サロン活動を再開した(3サロン) 「みつばちっこ本行徳」昨年度より再開 「行徳歌声サロン」6月より再開 「行徳カラオケサロン伊勢宿」10月より再開 ・新規サロンの開設 「行徳カラオケサロン塩焼」11月より開始 【地区社協事業】 ・3年ぶりに行徳ふれあいまつりを開催した ・福祉団体助成金の見直しを行った ・年末ふれあい配付を行った	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協 に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつ りを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業再開に向けて会議等の調整を行った。 ・次年度のサロン再開に向けた相談と調整を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケアシステム推進連絡会】 ・役員を対象に年4回開催した 【相談員会議等】 ・感染防止に考慮して4回開催した ・相談員マニュアルを作成した ・相談員の増員を図った 【その他】 ・総会は書面開催とした ・コロナ禍でも三役会を開催し情報の共有を 図った ・行徳ふれあいまつり再開に向け、実行委員会 を開催した	・行政と協議の上、コロナ感染状況に応じた拠点利用のガイドラインの見直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。	・各会議開催において、議題や資料等の作成支援を行った。 ・相談員マニュアル作成の支援を行った。 ・地域ケア会議に参加し、地域課題の把握に努めた。	・主に高齢者支援に関する地域課題の 把握と解決に向けて、地域の多様な 主体が参加する「地域ケア推進会 議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区 社協以外の関係団体に周知し、登録 を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 〜身近な地域の支え合い〜	・お互いさま事業の具体化	・具体的な取り組みに向けた話し合いには至らなかったが、会議にて他地区の状況等を情報 共有した。	・モデル実施(4地区)対象にモデル地区連絡会を開催し、コーディネーターに対する新たな予算化の提案をした。	・推進連絡会にて他地区の状況等の情報 提供を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。

#### 市川市社会福祉協議会

地域福祉活動を進めていくうえでの社協への意見・要望・期待

○社協会費納入協力者を増やす努力○寄付金を集め地域の福祉活動を支援○人材発掘育成○社協の認知度を高めるPR○地域の繋がりを深める関わり○相談内容を どう対処したか結果の報告○高齢者だけでなく他世代の支援

#### 行政(市川市)

地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

○福祉関連予算の増額○社協への資金援助○福祉関係職員の充実○市内の地域ケア拠点のPR○一般の方が入りやすいような拠点の改築○市の補助金制度等を地域 にわかりやすく整理○社協や地区社協と連携○高齢化に向け計画的な支援

(令和4年度)

南行徳地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	(社協地区CW、広域CW) の取り組み	行政(市川市)の取り組み
テーマ1  てるぼサロン および 地区社協事業の拡充  ~"ふれあい"や  "つながり"を育むために~	・地域活動の広報・PR ・活動の場の確保 ・地域の担い手の確保・育成	【てるぼサロン】 ・感染対策を行いながら、可能なサロンから 内容等を工夫して再開することができた。 ・新規サロン「おてんとさん」が南行徳市民 センターにて承認サロンとして8月より開 始した。 【地区社協事業】 ・新型コロナの影響ですべて中止となった。 ・福祉教育パッケージ指定最終年(3年目) となり、成果を千葉県福祉教育研究大会 にて発表した。	・事業助成金とサロン助成金を各地区 社協に対して助成を行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロン まつりを実施した。	・てるぼサロン再開に向けた調整を 行った。 ・福祉教育パッケージ指定の支援と して、各学校の調整と千葉県福祉 教育研究大会(動画発表)のため の調整等を図った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。
テーマ2 地域連携の強化 〜地域における 福祉課題の把握と対応〜	・相談機能の強化 ・地域ケア拠点の充実 ・団体間・関係機関との連携・協働 ・個別ケースの検討 ・地域における福祉課題の実情把握 (例)「ゴミ出し」「認知症の徘徊」 「孤立死・孤独死」「生活困窮」 「ゴミ屋敷」「防災・防犯」	【地域ケア拠点機能の強化】 ・感染対策を行いながら、拠点の定員内で開所した。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・役員を対象に、6月より毎月実施した 【相談員会議】 ・感染対策を行い両拠点毎月開催し、相談ケース等の対応等について協議し、専門機関との情報交換を行った。 【その他】 ・総会は書面開催とした。 ・ブロック会議を開催し情報共有を図った。 (1・3・8 ブロック)	・行政と協議の上、コロナ感染状況に 応じた拠点利用のガイドラインの見 直しを行った。 ・相談員会議に出席して拠点の実情把 握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席 し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相 談に対して、状況に応じて、地域で 解決できないか相談・調整を行った。	・各会議に参加・助言を行った。 ・個別ケースの対応支援を行った。 ・地域ケア会議に参加し、地域課題の 把握および関係機関の連携に努め た。	・主に高齢者支援に関する地域課題の 把握と解決に向けて、地域の多様な 主体が参加する「地域ケア推進会 議」を創設した。 ・「いちかわ支え合いネット」を地区 社協以外の関係団体に周知し、登録 を働きかけた。
テーマ3 「お互いさま事業」の実施 ~身近な地域の支え合い~	・お互いさま事業の具体化	・感染対策を行いながら、事業を実施した。  ※令和5年3月末現在の実績 協力員 44名 利用登録者 17名 活動回数 380回	・モデル実施(4地区)対象にモデル 地区連絡会を開催し、コーディネー ターに対する新たな予算化の提案を した。	・新規ケースの訪問支援を行った。 ・周知活動の支援を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため「生活支援サポーター養成研修」を実施した。また、修了者に対してステップアップ講座を実施し、活動団体とマッチングできるように取り組んだ。

#### 市川市社会福祉協議会

地域福祉活動を進めていくうえでの社協への意見・要望・期待

○福祉委員がスキルアップするための研修会の実施○各関係機関の役割の違いの説明とPR○地域活動時の保険加入と財政面の支援○積極的なPR(地域活動・各拠点・社協会員制度)○地域活動に達成感が得られるような支援○土日における突発時の対応支援○関係機関と連携したきめ細かい支援

#### 行政(市川市)

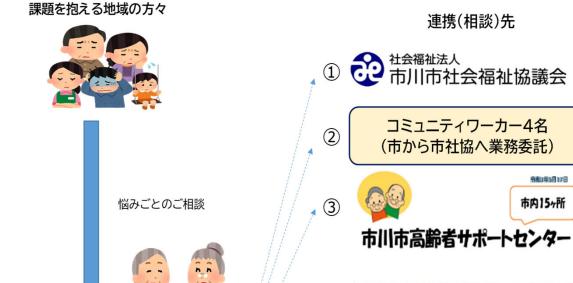
地域福祉活動を進めていくうえでの行政への意見・要望・期待

○申し入れ事項の迅速な回答○身近な存在○地域福祉活動に関する情報提供の充実○地域に出向き地域の意見を汲み上げて良い政策を実行○高齢者がいきいきと活動できるような支援○各担当課の役割とその周知○子ども関係課との連携

## 令和4年度 振り返りシートの「相談員」等に関する記述等

地区名	実施した取組み(振り返りシ	ケア拠点での	相談員会議	地域ケアシステム 推進連絡会の	
	地域	社協地区担当CW、広域CW	相談件数	の開催	開催
市川第一地区	【相談員会議】 感染状況をみながら2回開催することができ た。	相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や 整備について検討した。	1件	2回	2回
市川第二地区	【相談員会議】 コロナ禍でも感染防止対策を十分にとり、6 回開催した。	相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や 整備について検討した。	59件	6回	3 🛛
国府台地区	【相談員会議】 ・感染防止に考慮し6回開催	相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や 整備について検討した。	1件	6回	-
真間地区	【地域の担い手の確保・育成】 次世代へ「ケア」をつなぐために、若手の相談 員を数年にかけて6名獲得し、その育成に努 力している。	-	159件	12回	2回
菅野·須和田 地区	【相談員会議】 感染防止に考慮し4回開催	相談員会議へ参加し、地域ケア拠点の充実や 整備について検討した。	-	40	40
八幡地区	【地域ケア推進連絡会の開催】 八幡地区の暮らしに関する情報共有・意見 交換を行う地域ケア推進連絡会を年6回開催(再開)する	-	2件	10	6 🛭
曽谷地区	【相談員体制】 ・相談員体制を見直し、事務局としての機能を整備 ・相談員を対象とした研修の実施	相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連 携を図った。	-	10回	-
宮久保·下貝塚 地区	【地域拠点機能の強化】 ・今年度は新型コロナの感染状況により、開所時間を短縮するなど、感染拡大防止に努めていた。なお、10月からは通常開所としている。 ・新しい相談員を含め、相談業務の基本を再確認し、強化を図った。 ・商店街へ寄り合い処の活動をPRした。	新型コロナの影響で拠点の開所時間時短や再 開について地域と調整を図った。	-	4回	-
市川東部地区	[地域ケア拠点の活性化] ・拠点は、感染対策を行い予定どおり開所した。 ・毎月、広い会場にて相談員会議を行った。	地域の個別ケースに対して相談支援を行った。	2件	12回	10
国分地区	【相談員会議の充実】 コロナ禍の為、感染拡大防止の観点より実 施出来ず。ただし、随時、相談員同士連絡 を取り合うなど連携を図った。	役員会、理事会において、地域ケア推進連絡 会の開催を計画していたがコロナの影響で中止 となり、参加できなかった。	3件	-	10
大柏地区	【地域ケア拠点の強化】 ・日誌、相談カードはPCにて管理。報告や情報は市社協とメールで共有 ・地域ケア部会を立ち上げ、選抜した部会員にて拠点強化及び新規事業について検討中	・関係会議への参加及び連絡調整 ・必要に応じてPC入力方法などを支援。 ・地域ケア部会の連絡調整 ・地区社協及び地域ケアについて説明	1件	6回	3 🛭
信篤・二俣地区	【地域拠点の強化】 令和4年6月から再開。時間を短縮して開 所している。相談員が1名増加された。	-	12件	12回	3回
行徳地区	【相談員会議等】 ・感染防止に考慮して4回開催した ・相談員マニュアルを作成した ・相談員の増員を図った	相談員マニュアル作成の支援を行った。	2件	4回	40
	【相談員会議】 ・感染対策を行い両拠点毎月開催し、相談 ケース等の対応等について協議し、専門機関との情報交換を行った。	個別ケースの対応支援を行った。	145件	24回	10回

## 地区における相談の内容と連携先について



市川市生活サポートセンター **そら**(so-ra) €



【地区の方への質問】

地域ケア拠点(15カ所)

(1)地域ケア拠点でのご相談で お困りになったことはありましたか。

(2)相談員会議では、どのようなお話し合いをされていましたか。

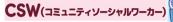
(3)相談員支援の観点で、コミュニティソーシャルワーカーに期待することはありますか。

その他、市の関係機関 (こども関係、学校・教育委員会 など)

(令和4年度まで) 千葉県中核地域生活支援 センターがじゅまる

令和5年7月~

6





福祉よりそい 相談窓口



#### 令和 5 年 8月22日 第 2 回地区推進会議 資料 3

#### 地域ケアシステム相談員の位置付け、役割・業務内容について

#### 1. 相談員の位置付け

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す仕組みを「市川市地域ケアシステム」といい、市川市独自の事業として平成 13 年より実施しています。

市川市を14の地域に分けて、地域住民が中心になって創立された「地区社会福祉協議会」が活動の主体となって取り組んでいます。

地域ケアシステムの活動をする中で、地区社協の拠点(事務所)が必要不可欠であり、そこ に携わる人材(相談員)が必要となります。

#### 2. 相談員の役割

- ①来所、電話で寄せられる様々な相談等への対応
  - ・地域の様々な相談を受ける
  - ・福祉委員・ボランティア等への地域活動の紹介及びその調整
  - ・行政、社協、関係機関等への連絡や相談、情報提供など
  - ・行政、社協、関係機関等からの情報やインターネット等を活用して市民へ情報提供する
  - ・車いすの貸し出し

#### ②来所者のお世話役として

・相談だけではなく、ちょっと立ち寄った人や世間話に来られた方などへのお世話役

#### ③地区社協の運営に必要な事務

- ・「お互いさま事業」に関わる事務
- ・地区社協事業の問合わせの対応、申込みの受付
- ・福祉委員内部の連絡調整 など

#### ④地区社協事業への参画

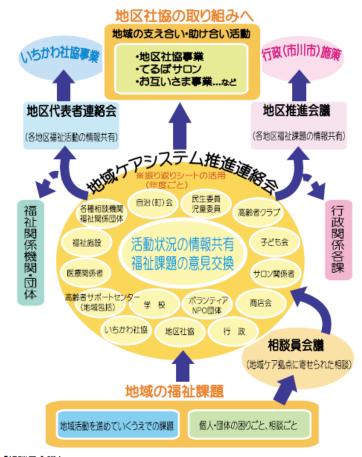
・福祉委員として地区社協事業(サロン活動を含む)について、事業の提案や参加など

#### ⑤関係会議への参加や提案

- ・福祉委員として地区社協の会議に参加、地域ケアシステム推進連絡会、相談員会議、 各種研修会等の出席
- ・地域から出た相談や意見、提案などを、地域ケアシステム推進連絡会等の各種会議の 中で報告・提案していく

#### 【参考】第4期わかちあいプラン(いちかわ社協「地域福祉活動計画 より抜粋

#### 地域の福祉課題 解決の流れ



#### ◎「相談員会議」

地域ケアの相談員は、地域住民からの相談に対して、地域住民が協力して解決できること、行政や専門機関につなぐ必要があることを踏まえ活動しており、定期的に「相談員会議」を開催し、情報共有、解決策を話し合っています。

相談員はそれぞれの地区社協から推薦され、いちかわ社協会長が委嘱します。

#### そう だん まど ぐち いち らん

# 相談窓口一覧

## 高齢

地域包括支援課(第1庁舎内)	047-712-8545
高齢者サポートセンター 国府台	047-373-6539
高齢者サポートセンター 国分	047-318-5565
高齢者サポートセンター 曽谷	047-371-6161
高齢者サポートセンター 大柏	047-338-6595
高齢者サポートセンター 宮久保・下貝塚	047-373-0763
高齢者サポートセンター 市川第一	047-700-5139
高齢者サポートセンター 市川第二	047-320-3105
高齢者サポートセンター 真間	047-322-8811
高齢者サポートセンター 菅野・須和田	047-326-7737
高齢者サポートセンター 八幡	047-376-3200
高齢者サポートセンター 市川東部	047-334-0070
高齢者サポートセンター 信篤・二俣	047-327-3366
高齢者サポートセンター 行徳	047-312-6070
高齢者サポートセンター 南行徳第一	047-359-6660

## 障がい

障がい者支援課 (第1庁舎内)	047-712-8517
基幹相談支援センター 大洲 [えくる 大洲ステーション]	047-702-5588
基幹相談支援センター <b>行徳</b> [えくる <b>行徳</b> ステーション]	047-303-3074

135				
135				
208				
妊娠・出産・育児に関すること				
511				
511				
785				
785				

## 生活困窮

市川市生活サポートセンターそら (分庁舎 C 棟)	047-704-0010

## 制度の狭間や複雑化・複合化ケース

福祉よりそい相談窓口	047 710 0200
(福祉部地域共生課総合調整グループ)	047-712-8386



## 令和5年7月より

市川市よりそい支援事業(重層的支援体制整備事業)

# スタート!



## 地域共生社会とは…

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、 地域住民や地域の多様な主体が参画し、

人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで住民一人ひとりの 暮らしと生きがい、地域をともに作っていく社会のことをいいます。



## 市川市よりそい支援事業とは…

社会福祉法の改正に伴い、令和3年4月に新たに創設された事業です。

介護、障がい、こども、生活困窮分野の既存の相談支援等を活かしつつ、「8050」「ダブルケア」「ヤングケアラー」などの複雑化・複合化した課題や「ひきこもり」などの制度の狭間の問題に対応するため、

- 対象者の属性を問わない相談支援
- ○多様な参加支援
- 地域づくりに向けた支援

を一体的に実施し、包括的な支援体制を整備するものです。

※本市では重層的支援体制整備事業を「市川市よりそい支援事業」の名称で実施しています。

①包括的相談支援事業 ②多機関協働事業 ③参加支援事業 ④アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 ⑤地域づくり事業





CSW(コミュニティソーシャルワーカー)の配置

誰もが住みやすい地域の実現に向けて CSW(コミュニティソーシャルワーカー) を配置しました

支援します /

家族がひきこもりがちで心配…

高齢でゴミ出しが大変になった

地域のために何かしたい!

地域の活動に参加したい

地域の情報を知りたい

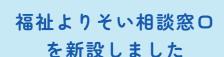
サロン活動を始めたい

CSWは、地域の多様な主体や個人の地域福祉活動の支援を行う 「ソーシャルワーカー」で、地域福祉を推進する専門職です。

地域の皆さんの「こんな地域になったらいいな」の声によりそい 地域のみなさんと一緒に誰もが暮らしやすい 支え合いの仕組みづくり・地域づくりに向けた



支援をおこなっていきます。



制度の狭間や複雑化・複合化ケースの 相談を受け付けます

例えば・・・

高齢の親と ひきこもりの子

ひきこもり



祖父母の世話をする ヤングケアラー



介護と育児に 疲れている母





どこに相談すれば良いかわからない・・・

相談したいことが複数分野ある・・・

\ そんな時は、福祉よりそい相談窓口へ /

福祉よりそい相談窓口(市川市 福祉部 地域共生課 総合調整グループ)

開所時間 月~金 8:45~17:15 場所 市川市役所第1庁舎3階

047-712-8386

